

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。

はいさい

《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。



新しいエコー機に買い換えました



以前使用していたエコー機が購入から7年経過しており、機械が立ち上がらないことや画面の異常なども頻発し、修理を繰り返していました。画質も生理検査室内のエコー機では一番悪いものとなっていたましたが、今年3月に新しいエコー機に買い換え、日常業務に支障来たことなく使用出来ています。

数社のエコー機を見比べ、エコー機のデモンストレーションもしていただき、画質や操作性・様々な機能等を比較、検討した結果、今回の機種を選定しました。

新しいエコー機はHITACHI-ALOKA社製の最新型汎用機で、腹部を始め心臓や乳腺、血管等いろいろな部位を検査することができます。フルフォーカスという最新機能も搭載しており、浅いところから深いところまで見やすくなりました。画質もとても良くなり、質の高い検査を提供できると思います。

定期検査のスクリーニングから、病気の質的診断まで幅広く活用していきたいと思っています。

検査室 臨床検査技師 名嘉 智恵

病院の活動状況

<2021年10月度>

- ・外来一日平均患者数：296人（前年同月比 +19人）
- ・入院一日平均患者数：254人（前年同月比 -11人）
- ・組合員利用分量(率)：50.7%（前年同月比 -6.4%）

コロナ禍におけるメンタルヘルスの取り組み

181

リエゾンセンターより



新型コロナウイルス感染症は二年にわたり世界に脅威をもたらし続けています。現在、第五波が

収まり、小康状態となって第六波の襲来が懸念されています。

当院では、昨年コロナ対策本部の下にメンタルヘルス対策チームを立ち上げ、臨床心理士を中心に活動を行いました。活動は、陽性者や濃厚接触者としてホテル療養や自宅待機となった職員への電話かけや、新型コロナウイルス感染症の患者の対応を行う病棟職員の面談を行いました。これらはこれまで通りの職員と職場の繋がりが維持できるように、また必要な部門や支援などに繋げることを意識して取り組みました。

新型コロナウイルス感染症は密を避けること、黙食など交流を抑えることが必要とされ、職員の交流が難しい状況です。メンタルヘルスにおいては、孤立感による影響が今後、問題となっていくと指摘されています。

医療面では今後も第六波が心配ですが、コロナ患者の対応が徐々に終息しても、精神的な問題はこれから増加することが予想されます。それに備えてより充実したメンタルヘルス対策が求められ今から準備していく必要があります。お互いに支え合い乗り越えていきましょう。

リエゾンセンター 課長

臨床心理士・公認心理師 神谷勝也

来年のキーワードは

ほっこり
やさしく
しなやかに

で
どう
で
し
よう
？



画・内科医 上原 和博



<ご感想>

6階病棟

協同病院様には何度か入院してお世話になっていますが、今回入院して思うことがありました。若い看護師さんたちの笑顔で真剣に病人と接している姿を見て世の中まだまだ捨てたものじゃないと感激しました。6階病棟は特別なのでしょうか？

これからもエネルギッシュで、良い看護師で頑張ってください。

1週間ありがとうございました。



形成外科体制表

○2021年12月1日から外来体制が変更になります。

	月	火	水	木	金	土
午前		北村卓也	北村卓也			
午後	北村卓也			福田 凌		

《診療開始時間・受付終了時間》 午前：9:00 ～ 11:00 午後：2:00 ～ 4:00

※完全予約制です。



ハルサー だより[㊞]

黄化葉巻病

五歳下の妹は私がミスをするとうしろがないねーという顔で「やっちゃったなー」という。今回はやっちゃったでは済まないミスをしてしまった。トマトの株二百本以上が黄化葉巻病になってしまったのだ。ミスの原因は防虫ネットを二重に設置するのが遅かったこと、フューして三面のうち一面は二重にしなかったこと、そして消毒が遅れたせいだと思う。黄化葉巻病はトマト農家が土壌病の次に恐れる病気だ。ウイルスをもったコナジラミが媒介して次々とつついていく病気なので一本に症状が出たら、その周囲の株もうつっている可能性大だ。

コナジラミはそこら辺を普通に飛んでいる虫なので露地栽培ではつたらかしにしておく

と殆ど病気になる。その為、みんな血眼になってコナジラミ対策をするのだ。絶滅は不可能なのでいかにハウス内に入れない・持ち込まないかが対策の基本になる。苗が小さいうちは症状も早く出るので引き抜いて植え替えもできる。しかし、株も実も大きくなってから感染すると「ここまで育てたのに」という思いで呆然としてしばし思案することになる。

結局、実の上を切り取るという気休めの選択をするのだが…。

まだ被害が全体の一割強なので被害株の側の脇芽を伸ばして空間を埋めているが、被害が三割以上になると大幅な減収は免れない。

さて、日本のコロナの新規感染者数は全国で百人をきって落ち着いてきているが、韓国や欧米諸国では逆に急増している。日本はこれからウイルスが好む(寒さと乾燥)季節に向かうので感染のリスクが高まる

ことが予想される。私は老体なので黄化葉巻病に教えられた「油断大敵」を教訓にして今の感染対策を維持するのみである。

ハルサー 金城 稲子